

[市の取り組み（公助の取り組み）] 施策の展開 事業・施策一覧

NO.	事業・施策名	内容	担当課	令和2年度				評価分類
				予定・目標	実績（取組状況）	評価	評価理由	
1 地域福祉活動の促進								
(4) 人材育成(直接的手法)								
41	学校セーフティウォッチ	地域住民や保護者が登下校時を中心に「学校セーフティウォッチャー」として見守りを行い、児童生徒の安全確保を図るボランティア活動を推進します。	学事課	<p>学校セーフティウォッチャーの登録者数は、誤り、担い手不足の状況にあります。とくに全にあたる地域協力者は、ほぼ毎日取り組まな^り、地域での人材確保が課題です。</p> <p>そのため、講習会の開催やスクールガードの配置を行うなど、課題解消のための支援を行います。</p> <p>また、学校セーフティウォッチ事業を推進することにより、子どもたちの登下校時の安全を確保します。</p> <p>【学校セーフティウォッチャー登録者】 ・前年度末登録者数 25,149人 【学校セーフティウォッチャー講習会】 ・実施回数 2回、参加者数 300人 【スクールガード・アドバイザーの配置】 ・前年度末配置数 13人</p>	<p>セーフティウォッチ事業の推進により、登下校時の安全確保が図ることができた。不審者の件数は、前年度252件に対し2年度276件であり、24件増加している。</p> <p>【学校セーフティウォッチャー登録者】 ・2年度登録者数24,341人 【学校セーフティウォッチャー講習会】 ・コロナ対策の未実施 【スクールガード・アドバイザーの配置】 ・2年度配置数 13人</p>	A	市内全域、2万人の見守り活動の実施は、児童生徒の事故防止および不審者の 減少 に結びついていると考えられる。セーフティウォッチャー登録数の減少については、今後の課題として継続した取り組みを行っていきます。	定量評価
1 地域福祉活動の促進								
(4) 人材育成(直接的手法)								
41	学校セーフティウォッチ	地域住民や保護者が登下校時を中心に「学校セーフティウォッチャー」として見守りを行い、児童生徒の安全確保を図るボランティア活動を推進します。	学事課	<p>学校セーフティウォッチャーの登録者数は、正り、担い手不足の状況にあります。とくに全にあたる地域協力者は、ほぼ毎日取り組ま^り、地域での人材確保が課題です。</p> <p>そのため、講習会の開催やスクールガードの配置を行うなど、課題解消のための支援を行います。</p> <p>また、学校セーフティウォッチ事業を推進することにより、子どもたちの登下校時の安全を確保します。</p> <p>【学校セーフティウォッチャー登録者】 ・前年度末登録者数 25,149人 【学校セーフティウォッチャー講習会】 ・実施回数 2回、参加者数 300人 【スクールガード・アドバイザーの配置】 ・前年度末配置数 13人</p>	<p>セーフティウォッチ事業の推進により、登下校時の安全確保が図ることができた。不審者の件数は、前年度268件に対し2年度276件であり、8件増加している。</p> <p>【学校セーフティウォッチャー登録者】 ・2年度登録者数24,341人 【学校セーフティウォッチャー講習会】 ・コロナ対策の未実施 【スクールガード・アドバイザーの配置】 ・2年度配置数 13人</p>	A	市内全域、2万人の見守り活動の実施は、児童生徒の事故防止および不審者 発生抑止 に結びついていると考えられる。セーフティウォッチャー登録数の減少については、今後の課題として継続した取り組みを行っていきます。	定量評価